



2020年漁期のヤリイカの漁況予測

令和2年11月2日  
宮城県水産技術総合センター  
環境資源チーム

本県のヤリイカ盛漁期（11月～翌年1月）における漁獲量は、9月の仙台湾（38°23'N, 141°33'E）の底水温及び10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）によって予測できることが知られている（増田 2015）。

そこで下記の式を使い、今漁期のヤリイカ漁獲量の見込みを推定した。

データセット：

$$Y=0.97X_1+100.66X_2-1362.64 \quad (n=24, r=0.83, \text{補正 } r^2=0.65, p<0.01 (X_1), p<0.01 (X_2))$$

Y；ヤリイカ盛漁期（11月～1月）の漁獲量（トン）

X<sub>1</sub>；10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）

X<sub>2</sub>；9月における仙台湾 St.12 の底層水温（℃）

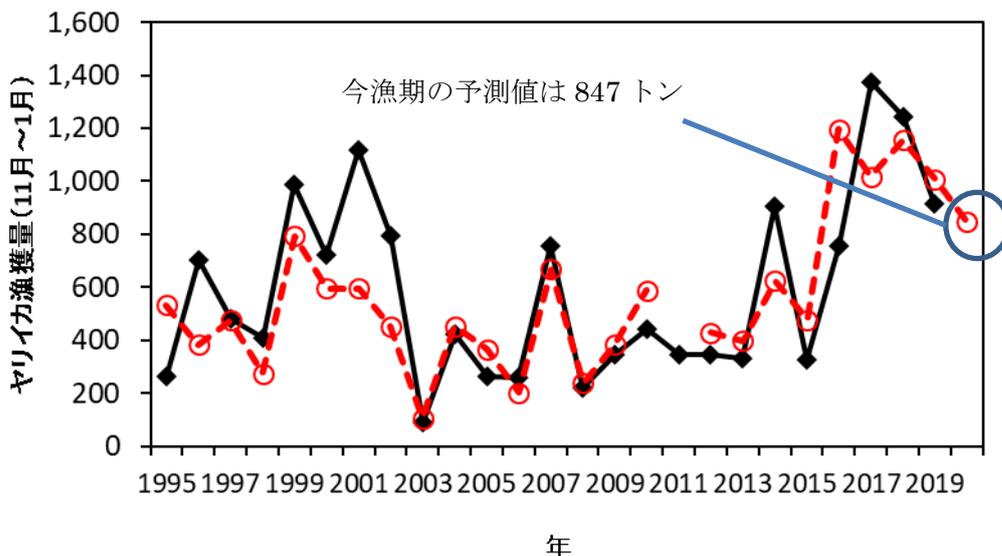


図1 1995年～2020年漁期におけるヤリイカ盛漁期の漁獲量（黒実線）と重回帰分析から得られた計算値（赤色点線）の関係。

今期の仙台湾へのヤリイカの加入条件は良いものの、直近年3ヶ年に比べてやや悪い結果となり、今漁期の11月～翌年1月の漁獲量は、847トンと推定されました。海況（親潮の南下：底水温が6.8℃以下になると産卵場に適さないためヤリイカは南下します）にも左右されますが、現時点では昨年の漁獲量（917トン）を下回るものの、平年値（593トン）を上回る漁獲が見込まれます。

※2016年～2017年の計算値と実際の漁獲量の乖離については、10月の漁獲物にケンサキイカが多数含まれていたことにより、計算値が過大（過小）に評価されてしまったことによるものと考えられます。また、今回の予測式では2015年～2019年の5年間分のデータを加えて計算し直した結果、直近年の計算値と実際の漁獲量の大幅な乖離は改善されました。

参考 1

親潮が南下し、沿岸に近づくとヤリイカは常磐以南へ移動します。また、底水温が  $6.8^{\circ}\text{C}$  以下になるとヤリイカは産卵適水温以下となりますので、漁場からなくなります。

今年の親潮は沖を南下するものと予測されることから、主漁期中（11月～翌年1月）におけるヤリイカ生息水温条件は現時点では良いと言えます。

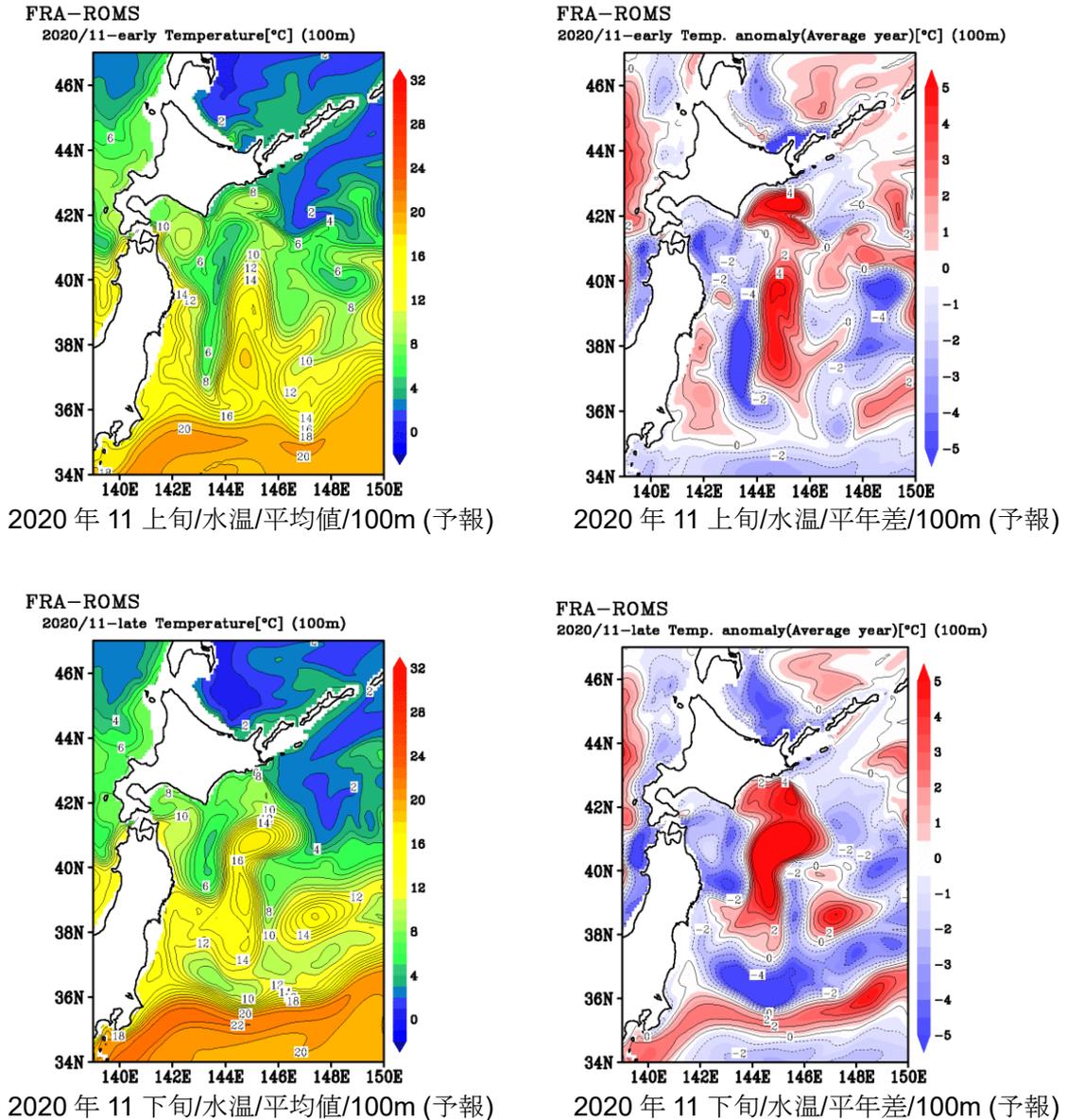


図2 FRA-ROMSによる11月上旬及び11月下旬の水深100mの水温予測

参考2

今年10月に週1回程度の頻度で沖底により漁獲されたケンサキイカとヤリイカの混入率調査を行った結果、比率は0:100でした。

表1. 2020年10月のヤリイカとケンサキイカの混入割合

	ヤリイカ (%)	ケンサキイカ (%)	数量	備考
10月7日	100	0	4.7kg	種類分け
10月14日	100	0	9.5kg	種類分け、精密測定
10月23日	100	0	19.0kg	種類分け
10月26日	100	0	24.3kg	種類分け、精密測定